



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位：億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
9/4 (月)	+ 1,000	▲ 23,200	▲ 22,200	法人税・消費税・ 年金保険揚げ 普通交付税交付金	CP等買入 ▲ 500 社債等 ▲ 100 国債補完供給 + 32,900		
9/5 (火)	+ 1,000	トン	+ 1,000				欧：1-0圏PPI(7月)
9/6 (水)	+ 1,000	▲ 27,000	▲ 26,000	国債発行 (10年)			米：バージェブック ISM非製造業総合景況指数(8月)
9/7 (木)	+ 1,000	トン	+ 1,000				日：景気一致指数(7月) 景気先行CI指数(7月) 欧：1-0圏GDP(2Q)
9/8 (金)	トン	▲ 9,000	▲ 9,000	国債発行 (30年)			日：景気ウォッチャー調査(8月)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初28日、前営業日比▲1,400億円の546兆7,800億円から始まった。その後31日には国債買入オペがスタートし548兆4,900億円まで増加した。9月1日には国債発行等により544兆600億円まで減少し越週した。

無担保コールON物加重平均金利は週初▲0.060%から始まった。その後ビッドサイドが調達を積極化させたことで同金利は30日に▲0.052%まで上昇したものの、週末となる9月1日にはオファーサイドが運用を積極化させたことで▲0.060%まで低下した。

ターム物は1~2W物を中心に▲0.070%~▲0.040%の水準で出が見られた。

来週の予定は、国内で7日に景気一致指数(7月)、景気先行CI指数(7月)の公表があり、海外では6日に米バージェブック、米ISM非製造業景況指数(8月)の公表がある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	▲0.087 ~ 0.001
1M	▲0.060 ~ 0.0100
2M	▲0.040 ~ 0.050
3M	0.000 ~ 0.130
6M	0.000 ~ 0.150

<レポ>

足許GCは週初▲0.17%近辺から出合い始め、▲0.17%~▲0.15%で推移した。月末跨ぎの取引となる30日は一時▲0.20%まで低下した。その後▲0.18%~▲0.16%が取引の中心となったが、3m短国の入札があった1日の取引では後場▲0.13~▲0.11%まで上昇した。

SC取引は2年438~451回債、5年149~160回債、10年350~371回債、20年180~185回債、30年65~79回債、40年13~16回債などに引合いが多く見られた。

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	▲0.050 ~ 0.000
CP 3M	0.000 ~ 0.010

<CCP>

今週の入札発行総額は約1兆9,300億円で、週間償還額(約2兆2,600億円)を下回った。発行市場は月末の大量償還により償還超となったものの、機械や食料品、石油等の業態で大型発行が見られた他、幅広い業種で発行が見られ活況となった。発行残高は先週末時点の28兆4,946億円から8月31日時点で27兆1,711億円に減少した。発行レートは、0%近辺から小幅なプラス圏での出合いが中心であった。28日にCP等買入オペが予定通り4,000億円でオファーされた。結果は、按分レート-0.005%(前回-0.002%)、平均落札レート0.001%(0.006%)と按分レート、平均落札レート共に前回比で低下した。

来週の償還額は約7,300億円となっている。発行市場は、良好な調達環境等を背景に相応の発行ニーズが見込まれる。発行レートは、浅いマイナスから0%近辺での出合いが中心となることを予想する。8日に、CP等買入オペが4,000億円でオファーされる予定となっている。

<TDB>

1日の3M(1179回債)の入札は、最高落札利回り▲0.1503%(前回債▲0.1483%)、平均落札利回り▲0.1663%(前回債▲0.1483%)となった。

来週は7日に6M、8日に3Mの入札が予定されている。